広大歯誌　29，83-86，1997.

歯科衛生士学校学生の職業的同一性に関する行動科学的検討

石川　隆義，長坂　信夫

A Behavioral Science Study on the Occupational Identity of Dental Hygiene Students

Takayoshi Ishikawa and Nobuo Nagasaka

（平成９年３月31日受付）

緒　　言

青年期は，心理的に様々な葛藤を体験しながら，自己の生き方を模索していく時期である。そして，大人としての新たな自我同一性を確立していくことは，青年期における重要な発達課題であると言える[1]。Erikson[2] は，「自我が特定の社会的現実の枠組みの中で定義されている自我（a defined ego）へと発達しつつある確信の感覚」として自我同一性の概念を提唱し，人生の周期における発達課題の漸成的図式の８段階の中の第５段階を，「同一性」対「同一性拡散」の課題を解決する段階とした。この自我同一性確立の重要な前提条件の一つとして，職業に就くための具体的な準備を進め，職業的自己イメージを認識して行くことが重要である。具体的な職業とのかかわりにおける自我同一性の側面，すなわち職業的同一性は，自我同一性の重要な構成要素と言える[3]。

歯科衛生士学校学生にとっても，在学中のこの時期には，こうした青年期の発達課題の達成をめざすことが期待される。特に，歯科衛生士学校学生のほとんどは，すでに入学時に「歯科衛生士」と言う具体的な職業選択を行っていると考えられる。そして，２年間という短い就学期間の間に，歯科衛生士としての専門知識や操作的技術，医療従事者としての対人関係を習得することはもちろん，歯科衛生士としての適切な職業的自己認識を形成し，職業的同一性の確立をめざすことを期待されるのである。将来への目標が明確である一方で，学生はそれまでの環境との急激な変化にうまく適応できずストレス反応が高まりやすい。そして，学生の一部にはストレス反応が過剰に高まり学業半ばで挫折したり留年する者もいる。

今回は，歯科衛生士学校学生において，歯科衛生士としての職業的同一性の確立の様相について検討した。さらに自我同一性は，一定の対象との間，あるいは一定の集団との間で，是認された役割の達成，共通の価値観の共有を介して得られる連帯感，安定感に基礎づけられた肯定的な自己像を意味すると言われている[2]。そこで，歯科衛生士学校学生の職業的同一性と自己価値観との関連性についても調査検討を行ったので報告する。

対象および方法

対象は，本学歯学部附属歯科衛生士学校の一年次生20名である。本調査に際し，学生に十分な説明を行い，理解と同意が得られた者に対して実施をした。歯科衛生士としての理想的自己像を査定するために，西平[4] の「自我同一性調査項目表」を適用した（表１）。これは，対人関係，性格特性，生活態度，社会意識，人生に対する構えなどの諸要因を反映した75項目から構成されている。奇数項目は社会的に望ましいもの，偶数項目は望ましくないものである。

算定法は，先ず「自分自身の特性」と「歯科衛生士に必要と思われる特性」について75項目を５段階評定させた。そして，両特性の一致度を次式より求め各個人の職業的同一性得点とした。

$$C=100/\sqrt{\Sigma d^2/n}$$

C：職業的同一性得点，d：同一項目での反応差
n：項目数

この同一性得点の平均値を境に，平均得点より高い者を職業的同一性の確立が高い群（高同一性群），平均得点より低い者を職業的同一性の確立が低い群（低同一性群）に分類した。そして，両群の「自分自身の特

広島大学歯学部小児歯科学講座（主任：長坂信夫教授）

表1　自我同一性調査項目表

あなたは自分自身・歯科衛生士を，次のような性格だ（特色を持っている）と思いますか。各々について，項目毎にあてはまると思う番号を選択して下さい。

1：全く（決して）そう思わない
2：どちらかといえば，そう思わない
3：ふつう，わからない，なんともいえない
4：どちらかといえば（まあ）そう思う
5：非常に（しばしば）そう思う

1	親切な	26	不安定な	51	スポーツ好きな
2	臆病な	27	献身的な	52	政治に無関心な
3	さっぱりした	28	感動しやすい	53	（毎日の生活に）生き甲斐を感ずる
4	虚栄心の強い	29	趣味の広い	54	利己的な・自己中心的な
5	やさしい	30	計算高い（がめつい）	55	宗教的な（敬虔な）
6	なげやりのところのある	31	スケール（器）の大きな	56	しょげやすい
7	ユーモアのある	32	あきっぽい	57	ロマンチックな
8	頑固な	33	手先きの器用な	58	支配欲の強い
9	子ども好き	34	古いものの考え方をする	59	理想主義的な
10	権力を求める	35	美的感覚（センス）のある	60	ひねくれた
11	ものを深く考える	36	疑い深い（不信の）	61	進歩的な（革新的な）
12	意志の弱い	37	礼儀正しい	62	観念的な
13	鷹揚（おうよう）な	38	甘え（た）	63	几帳面な
14	しっと深い	39	純潔な	64	熱狂的な
15	明るい	40	わがままな	65	正義感の強い
16	感傷的な（オセンチ）な	41	未来に大きな希望をもつ	66	ニヒルな（未来に希望や理想のない）
17	行動力のある	42	無責任な	67	調和のとれた
18	内気な（はにかみやの）	43	包容力のある	68	目上の人にこびる
19	若さにあふれた	44	粗暴な	69	独立心の強い
20	孤独な	45	ねばり強い（根性のある）	70	強がり（の態度をとる）
21	指導力のある	46	大人のまねをする	71	ひたむきな
22	神経質な（線の細い）	47	素直な	72	うぬぼれの強い
23	体の強い	48	服従的な	73	非妥協的な
24	ヒステリック	49	友人の多い（社交的な）	74	強い刺激を求める
25	冒険好きな	50	他人を気にする	75	のんきな（楽天的な）

性」と「歯科衛生士に必要と思われる特性」との各項目の平均評定値の差の検定を行った。

また，自己価値観尺度は，Rosenberg[5] の self-esteem 尺度をもとに宗像[6] が作成したものを用いた。そして，高同一性群と低同一性群との間の自己価値観の平均評定値の差の検定を行った。

尚，統計処理は両群間で母分散に差があるかどうかを F 検定でチェックし，分散が等しい場合対応のない t 検定を用い，分散が異なる場合は Cochran-Cox 法により検定を行った。

結　　果

対象全体の職業的同一性得点の平均は87.8（標準偏差25.7）であり，職業的同一性得点が88点以上の者を高同一性群（7名），87点以下の者を低同一性群（13名）とした。そして，両群の項目別における平均評定値と標準偏差を算出し，平均値の差の検定を行った。その結果，自分自身の特性において，社会的に望ましくないとする項目2，12，18，38，48，62において低同一性群の方が高同一性群に比し平均評定値が高く，有意差を認めた。社会的に望ましいとされる項目21については，高同一性群の方が低同一性群に比し平均評定値が高く，有意差を認めた（表2）。歯科衛生士の特性において，社会的に望ましいとする項目1，5，9，13，43，75において低同一性群の方が高同一性群に比し平均評定値が高く，有意差を認めた。社会的に望ましくないとされる項目8と44については，高同一性群の方が低同一性群に比し平均評定値が高く有意差

表2　「自分自身の特性」で両群間に有意差の認められた項目の平均評定値

項目	低同一性群	高同一性群	
2	3.31 (1.14)	1.86 (0.64)	**
12	3.08 (1.14)	1.71 (0.45)	**
18	3.15 (1.17)	1.86 (0.64)	*
21	2.23 (0.70)	3.29 (0.70)	**
38	3.08 (1.07)	2.14 (0.64)	*
48	3.15 (0.66)	2.43 (0.49)	*
62	3.00 (0.68)	2.29 (0.70)	*

（　）：標準偏差
*：$p<0.05$，**：$p<0.01$

表3 「歯科衛生士の特性」で両群間に有意差の認められた項目の平均評定値

項目	低同一性群	高同一性群	
1	4.85 (0.36)	3.71 (0.88)	*
5	4.62 (0.62)	3.57 (1.05)	*
8	2.23 (0.58)	2.85 (0.63)	*
9	4.69 (0.61)	3.57 (1.18)	*
13	3.92 (0.92)	3.14 (0.35)	*
43	4.38 (0.49)	3.57 (0.49)	*
44	1.38 (0.62)	2.14 (0.64)	*
75	3.15 (0.86)	2.29 (0.70)	*

( )：標準偏差
*：$p<0.05$

表4 両群における自己価値観の平均評定値の比較

低同一性群 (N=13)	4.08 (1.86)	*
高同一性群 (N= 7)	6.71 (1.98)	

*：$P<0.05$
( )：標準偏差

を認めた（表3）。

また，表4に両群の自己価値観の平均評定値とその検定結果を示す。高同一性群の方が低同一性群に比し，自己価値観における平均評定値が高く有意差を認めた。

考　　察

自我同一性の中で特に職業にかかわる同一性の側面を職業的同一性と呼ばれている。Hershenson[7]は，自分が抱く自己像と他者の目に映る自己像の一致の程度を同一性の感覚と呼び，これと，自我親和的な職業的役割の達成，すなわち，自分が選んだ仕事が肌に合うという感覚（職業的適合感）が，自我同一性の形成に寄与すると述べている。

本邦での医療職における職業的同一性を研究したものの中で，看護学生を対象としたもの[8-20]，理学療法士・作業療法士学生を対象にしたもの[21,22]，歯科衛生士学校学生を対象にしたもの[23,24]がある。特に，本検討の対象である歯科衛生士学校学生において，山田ら[23]は学生における理想の歯科衛生士像を構成する基本因子について検索をしている。また高阪ら[24]は，学生の職業意識の形成および変化を，職業的同一性の確立の観点から検討をしている。しかし，歯科衛生士学校学生の職業的同一性の確立の程度と自己価値観の視点からみたものはなく，今回その関連性についても検討を行ってみた。

職業的同一性の低い群においては，自分自身の特性では高い群に比しより否定的に評定し，歯科衛生士の特性ではより肯定的に評定していることが認められた。このことはいわゆる同一性拡散の状態を示していると考えられる。同一性の混乱は，そのまま勉学などの意欲への活動性の病理になって顕在化することがある。このような状態の時，深層における葛藤なり心理的危機が何か未解決なまま潜んでいることが指摘されている[25]。

一方高同一性群では，自分自身の特性において社会的に望ましくない6項目で低同一性群に比し有意に平均評定値が低く，社会的に望ましい1項目については，高同一性群の方が低同一性群に比し有意に平均評定値が高いことが認められた。このことより職業的同一性の高い群は，より肯定的に自分自身の特性を評定していると考えられた。さらに，自己価値観において高同一性群の方が低同一性群に比し，有意に平均評定値が高かった。従って，職業的同一性の高い者の方が，自己価値観を高く持っていると考えられ，自分自身の特性を肯定的に評価していることをより支持する結果が示されたと言える。

田邨ら[21]は，理学療法士・作業療法士学生の自己価値観を規定する要因について検索している。そして，教員との人間関係が不良な学生や日常苛立ちが多い学生は，教員との情緒的葛藤を生じやすく自己価値が低くなることが判明している。歯科衛生士学校学生教育においても，学生・教員間の人間関係に着目し，かつ学生が日常苛立ちを感じる環境因子を除去することにより，学生の情緒的葛藤を減少させ，結果として自己価値観が向上することが期待される。そして，この自己価値観の向上が歯科衛生士学校学生の職業的同一性の確立の素地となりえるのではないかと考えている。或いはまた，職業的同一性が高まることにより，職業を通して自分らしさを確かめ，自分らしさを生かし育てていく職業的姿勢ができていき，自己価値観が向上していくという円環的関係にあると考察している。

結　　論

本学歯学部附属歯科衛生士学校一年次生20名を対象に，職業的同一性確立の様相および同一性と自己価値観との関連性について検討を行った。その結果以下のことが示された。

1) 職業的同一性の確立の低い群では，高同一性群との比較において，「自分自身の特性」はより否定的に，「歯科衛生士の特性」はより肯定的に評定しており，両特性のイメージの捉え方が拡散していた。

2) 職業的同一性の確立の高い群では，低同一性群との比較において，「自分自身の特性」はより肯定的に評定しており，さらに自己価値観がより高いことが認められた。

文　　献

1) 西平直喜：青年心理学方法論．有斐閣，東京，2-3, 1983.
2) Erikson, E.H.: The problem of ego identity. *J. Am. Psychoanal. Assoc.* **4**, 56-121, 1956.
3) 鑪幹八郎，山本　力，宮下一博：自我同一性研究の展望．ナカニシヤ出版，京都，154-167, 1984.
4) 西平直喜：青年心理学方法論．有斐閣，東京，99-100, 1983.
5) Rosenberg, M.: Society and the adolescent self image. Princeton University Press, New Jersey, 1965.
6) 宗像恒次：新版　行動科学からみた健康と病気．メジカルフレンド社，東京，225-228, 1990.
7) Hershenson, D.B.: Life-stage vocational development system.*J. Counseling Psychology* **15**, 23-30, 1968.
8) 小平朋江：看護短大における学生の自我同一性の発達と職業選択について．日本看護科学会誌 **9**, 42-43, 1989.
9) 福本美鈴，杉森みど里：看護学教育における自我同一性に関する研究　—職業領域および価値意識領域に焦点をあてて—．日本看護科学会誌 **9**, 44-45, 1989.
10) 山田ゆかり，江見佳俊：青年期における自己概念　—自己同一性の確立過程との関連性について—．日本心理学会53回大会発表論文集　171, 1989.
11) 山田ゆかり，江見佳俊：青年期における自己概念　—自己同一性の確立過程との関連性について(2)—．日本心理学会54回大会発表論文集 146, 1990.
12) 新井明美，荒尾晴恵，石井敏子，大西和子，古場利津子，友田真知子，重　則子，店橋光枝：看護学生の自我同一性職業について．第21回日本看護学会集録（看護教育）209-211, 1990.
13) グレッグ美鈴，高橋みや子：看護学生の同一性形成に及ぼす教育課程の影響　—半構造化面接法による追跡調査—．全国看護教育研究会誌 **22**, 96-108, 1990.
14) 波多野梗子，小野寺杜紀：看護婦の熟達化と職業的同一性．日本看護科学会誌　**11**, 130-131, 1991.
15) 小野寺杜紀，波多野梗子：医療系公立短期大学の看護学科卒業生の動向と職業的同一性．埼玉県立衛生短期大学紀要　**16**, 35-44, 1991.
16) 松下由美子，木村　周：看護学生の職業的同一性形成を規定する要因の検討．教育相談研究 **31**, 29-45, 1993.
17) 波多野梗子，小野寺杜紀：看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化．日本看護研究学会誌　**16**, 21-28, 1993.
18) 安藤詳子，内海　滉：看護学生の職業的同一性形成．名古屋大学医療技術短期大学紀要　**5**, 133-143, 1993.
19) 松下由美子，荒木美千子，木村　周：看護学生の職業的同一性形成に関する研究　—同一性地位面接による分析—．神奈川県立衛生短期大学紀要　**26**, 15-22, 1994.
20) 安藤詳子，内海　滉：看護学生の自我同一性に関する研究　—職業的同一性を規定する教育的要因—．日本看護研究学会雑誌　**18**, 7-19, 1995.
21) 田邨文彦，鶴見隆正：学生の職業的自己認識性を理解するための行動科学的検討．医学教育 **26**, 409-411, 1995.
22) 日比野慶子，井上桂子，東嶋美佐子：OT 学部学生の自我同一性について　—現実自我と理想自我の差から考える—．作業療法　**14**, 374, 1995.
23) 山田ゆかり，土屋友幸，高坂利美，佐藤厚子，後藤君江，萩原裕子，杉浦歌織，黒須一夫：歯科衛生士としての職業意識の形成について　—歯科衛生専門学校生の理想的自己像の検討．日本歯科医療管理学会雑誌　**30**, 147-151, 1995.
24) 高坂利美，佐藤厚子，後藤君江，萩原裕子，杉浦歌織，土屋友幸，山田ゆかり，渡辺直彦，黒須一夫：歯科衛生士としての職業意識の形成について(1)　歯科衛生専門学校生における職業的同一性の検討（抄）．日歯心身　**10**, 193, 1995.
25) 鑪幹八郎，山本　力，宮下一博：アイデンティティ研究の展望Ⅰ．ナカニシヤ出版，京都，32, 1995.